

関の子広場パトロール隊（福島県）



揃いのユニホームによる活動！

地域住民による自主防犯活動

1 地域紹介と施設開設

当地区勿来は、福島県いわき市の最南部、茨城県との県境に位置しています。春は桜の名所日本三古関の一つ県立自然公園『勿来の関』、夏はいわき七浜の一つ勿来海水浴場を有し、県内外の観光客で賑わう地区で様々な人々が往来する場所に、まさしく犯罪や非行を地域から追放する関所としての役割を備えた『関の子広場』が設置されています。

平成 14 年頃から駅周辺における自転車盗難の増加や少年のい集等の問題が浮上し、地元の自治会、学校、PTA等が中心となって「学区内健全育成会」が結成され、子ども見守り活動や補導活動を実施しましたが大きな効果は得られませんでした。そこで、行政や警察の指導協力を得て、活動趣旨に賛同する地元住民の手によるボランティア団体を結成し、住民が主体で運営する勿来駅前安全安心拠点施設『関の子広場』を平成 19 年 6 月 1 日に開所しました。

2 「関の子広場」の概要

- 設置場所 JR 常磐線勿来駅前（いわき市の所有地）
- 建物 『関の子広場』として 24.22 m²の単独棟
- 活動人員 関の子広場サポーターとして約 80 名が登録
(多くが活動に賛同している地元住民)
- 関係機関団体 14 団体（全ての団体が運営委員として加盟）

- 活動日時 月曜日～土曜日 午前9時30分～午後7時00分
3交代（1日あたり10～15人）で地元住民のサポーターが常駐
各運営委員の団体から毎日1～2名が参加協力

3 活動(事業)内容

(1) 地域の安全パトロール

小・中・高校生の登下校時間帯の徒歩による見守り活動や午後に2～3回の車両による定期防犯パトロールを毎日実施。また、不審者情報に基づく緊急防犯パトロールも実施。

(2) 少年の健全育成・非行防止活動

駅を利用する少年等への健全育成を願った声掛け、警察署や学校と連携しての自転車マナーの指導、街頭キャンペーン等を実施しての自転車盗難抑止活動。

毎週水曜日は勿来高校生、月に1回は勿来第二中学校の生徒参加による駅トイレや周辺施設の環境美化活動。

(3) 高齢者・独居老人宅の訪問支援

市福祉センターと共同により、家庭訪問や清掃活動等を実施。また、見守りマップを作成。

(4) 東日本大震災における活動

東日本大震災発生当初から、被災住民の避難所への移動誘導・介助を実施。その後避難所に対する支援物資やライフラインが壊滅した各家庭への生活用水搬送等を実施し、震災により弱まっていた地域の絆を再生復活させる原動力となり、住民の不安解消に大きく役立った。

(5) その他

地域の安全安心に関する情報発信・情報交換・相談受付。来訪者への観光案内、荷物一時預かり、自転車の修理。地域安全活動関係の各種広報啓発活動等、来所される方々を幅広く受け付けている。

4 活動効果

放置自転車、駅周辺の投棄ゴミ、少年のい集、道路危険箇所等について激減しており、犯罪発生数や少年非行数の減少に効果をあげています。

5 今後の課題

(1) 関の子広場サポーターの研鑽及び増強

地元「関の子広場」の存在が浸透するにつれて、住民からは頼られる存在となってきました。今後は、機会を設けながらサポーターの知識研鑽に努めていきたいと考えています。また、現在、私たちの地域は東日本大震災復興の最中であり、サポーターの全員が被災者のため、各々の家の復旧の中、時間を作り活動を継続している状況です。地域の絆を深めるために、より広く多くのサポーター獲得に努めたいと考えています。

(2) 運営の継続及び堅持

安全安心な街づくりには、活動の継続と積み重ねが重要だと考えています。そのために、年間12万円程の施設維持費を今後も継続して賄うことができるように、地域に「関の子広場」の活動を根付かせる働きかけを考えていきます。

関の子広場パトロール隊（福島県）

福島から参りました「関の子広場パトロール隊」の日渡と申します。本日会場には、私たちサポーター6名の外、いわき南警察署の生活安全課長、アシスタントをしてくれる福島県立勿来高等学校の生徒会長清野さん、そしてご指導の先生も来られております。現在被災をしている中で、このように多人数でこのフォーラムに参加できることを大変光栄に思っております。



「関の子広場」の紹介

「関の子広場」は、福島県いわき市の最南部、勿来（なこそ）地区にあります。福島県は、浜通り、中通り、会津地方と3地区に分かれております。浜通りは今回の震災で大きな被害を受けました。勿来地区は海岸線から500m足らずのところにあります。3月、4月となると、桜の名所、日本三古関の一つ「勿来の関」が有名ですが、今回の震災と原発事故の影響で観光客が全然訪れない状況でした。夏も毎年多くの海水浴客が訪れる勿来海水浴場で、今年は泳ぐ人を全く見かけませんでした。秋の紅葉シーズンもほとんど観光客は望めないのではないか、そんな思いの中で、私たちは活動を行っております。また、私たち自身も被災をしています。サポーターの中には、やむなく避難生活を送られている方もおります。

「関の子広場」は、地域の安全確保と非行の未然防止の2つを柱に、青少年の健全育成を進めるため、安心・安全の拠点施設として開所されました。

かつて、当地区は非行の比較的少ない、犯罪に強い地域でした。しかし、平成14年頃から全国的な流れの中で、当地域も生徒たちの校外生活指導の問題が生じ、「学区内健全育成会」を地元の各種団体に声をかけて結成しました。しかし、それでも犯罪が減少しなかったことから、区長をはじめ関係団体の方々に呼びかけて、交番を設置していただけるよう陳情を行いました。実現には至りませんでした。そこで、地域住民が主体となった民間交番をつくろうということになったのです。

果たして地域住民で何ができるのか、バックに警察行政があるというだけで、地域の安全安心の拠点として成り立つのだろうかとの不安もありましたが、とにかくはじめようということで、平成19年6月1日に、住民主体で運営する安全安心拠点「関の子広場」が開所されました。

施設概要

ご覧になっておわかりのように、防犯灯の「コウバン」の文字が「交」ではなく「公」、「公番」となっています。これには、地域全体で番所の役割をしようという思いが込められています。

施設の規模は24.22㎡で8坪程度。市所有の土地に各種企業の協力を得て、この建屋ができました。

構成員は、地元住民です。私たちはサポーターと呼んでいますが、揃いのユニフォームを着て地域パトロール等の活動にあたっています。ユニフォームのグリーンは今では「関の子カラー」ということで、地域に浸透しています。

活動日時については、ここでは月曜日～土曜日となっていますが、実際、今は皆さん震災後の復旧

に追われているものですから、なかなかこのセッションは難しい状況にあります。そんな中で、今は月曜日～金曜日、何かイベントがあるときには土曜日、日曜日でも対処する。あるいは、災害異変とか、今回の震災のような特別なことが起こった場合には、休みなしで開ける。時間は、午前9時30分から午後7時までですが、お正月、初詣の参拝客が訪れるお寺や神社のある場所では、夜中のパトロールをしたり、お盆の夏祭りの会場では、屋台が出ることから、積極的に防犯協会等との連携をとりながら、祭りが終了するまでの防犯パトロールを実施するなどしています。

体制は、一日3交代で活動しています。大体1セッションが3～4時間で、駐在人数は3名～5名。そこにプラスアルファとして、各種関係団体からの運営委員が参加します。具体的には、民生委員や同志会、安全協会など、14団体の方が参加し、サポーターと運営委員が協力して、さまざまな活動を行っています。

2. 施設概要



「交番」ではなく、「民間公番」です。
地域住民主導で設置されました



平成19年6月1日 開所
場所：JR常磐線勿来駅前駐輪場
規模：24.22㎡

構成員(サポーター)



地域住民約80名
の手で運営されて
います



鮮やかな黄色の
ユニフォーム

活動(事業)内容

それでは、ここからは、私たちの事業内容について写真をまじえながら紹介させていただきます。
私たちの事業には、

- ①地域の安全パトロール
- ②在所補導活動、非行防止事業
- ③警察官による立ち寄り警戒活動
- ④地域の安全・安心に関する情報交換事業
- ⑤地域の安全・安心に関する相談事業
- ⑥地域の安全・安心に関する情報等の発信に関する事業
- ⑦青少年とボランティアとの共同・交流事業
- ⑧拠点施設を活用して行うことが効果的と考えられる事業

があります。

(1)地域の安全パトロール

小・中・高生の見守り活動



まず、①地域の安全パトロールです。

この写真をご覧ください。これは、震災直後に、鹿児島県警が応援で入っているときに、鹿児島県警といわき南警察署のパトカーとサポーターが共同で子どもたちの見守り活動を行っているところです。

次の写真です。私たちの地域は原発から70km～80km離れていますが、放射線量がやはり心配な場所です。そうした中で、地域包括支援センターで高齢者を見守る活動をしているNPOの方々と協力をして、

放射線測定器を持って高齢者のお宅を伺いながら、困りごとなどがあるかということを見回り活動の一環として行いました。

次に、②在所補導活動、非行防止事業です。

これに関しては、常にいわき南警察署、勿来高校、あるいは他の防犯団体と共同で活動を行っています。

次に、③警察官による立ち寄り警戒活動ですが、最近の活動としては、地元スーパーの前で震災に合わせて義援金詐欺等が多発しているということで、福島県警と共同で防犯チラシを配布して被害予防を呼びかけました。

続いて、④地域の安全安心に関する情報交換事業です。

「関の子広場」が開所する以前は放置自転車、盗難自転車の問題が非常に多くありましたので、いわき南警察署と連携を図りながら、これらの発見活動や駅前、学校の登下校の道路で落し物があつた場合の拾得物の一時預かりを行っています。それから、不審者発生時の緊急パトロールがあります。いわき南警察署の方から連絡が入った場合は、率先して地域のパトロールを実施しています。また、何か事件が発生していわき南警察署から自動車のナンバーチェックの依頼を受ければ、街頭に出てナンバーチェックなども行っています。さらに、立地的に常磐線と国道6号線との間ということで、国道6号線で交通事故などが発生した場合には、二次的事故を防ぐために交通整理なども行っています。行政との連携については、市、県、国、全て連携がとれるような形になっており、とくに地元区長とは常々連携をとりながら活動を行っています。

次に、⑥地域の安全・安心に関する情報等の発信に関する事業についてです。ボランティアが高齢者の見守り活動を行うに際して、専門家とどのように関わっていくか、ということを考えており、まずは「見守りマーク」などを作成し、先ほどご紹介したように高齢者宅を訪問して放射線の測定を行ったりしています。今後、運営委員会を含めてより良い活動を検討していきたいと考えています。

次に、⑦青少年とボランティアとの共同・交流事業です。私たちは、「関の子広場」を開所した頃から青少年とサポーター（地域住民）がどのようにコミュニケーションを図っていくかということを中心に大きな課題として考えていました。そのような中で、地元の勿来高校の生徒の皆さんは、学校を挙げて私たちの活動に協力してくれています。参加してもらっている活動は、小学生の見守り活動や地域の清掃活動などがあり、また、ふれあいの場としてもちつき大会を開催したりしています。生徒の皆さんの活動は、「高校生日誌」に記載してもらい、私たちの施設の中に保存させていただいています。

最後に、⑧拠点施設を活用して行うことが効果的と考えられる事業を紹介します。毎年、夏休みなどに勿来地区に訪れた観光客に対して観光案内や荷物預かりを実施しています。また、地元自転車屋がないことから、自転車の修理も行っています。放置自転車等の回収を行い、いわき南警察署に照会した後、手続きを踏んでリサイクルし、地元の方々に還元するというような活動も行っています。それから、アルミ缶、エコキャップ、プルタブ等の回収を中学校と連携して行い、そこで得た資金で福祉施設へ車いすやコンロ等を寄付したりしています。

(1)地域の安全パトロール

日々の地域パトロールおよび放射線量測定



(4)青少年とサポーターの共同活動



高校生が
活動日誌をつけている様子

毎年12月の恒例行事
「もちつき大会」



活動の成果

私たちのこれまでの活動の成果ですが、放置自転車、駅周辺の投棄ゴミ、少年のい集等が激減しています。とくに放置自転車については、私たちの目の前にある駐輪場から放置自転車が見つかった例は、過去4年間で記憶にあるだけでも数件ではないかと思います。

活動実績

- ・ 放置自転車、放置ゴミの激減
- ・ 危険箇所の減少
- ・ 非行犯罪の減少(盗難自転車等)

年度	刑法犯総数	窃盗犯	侵入盗	車上狙い	自転車盗
H18	171	129	22	25	32
H21	138	93	15	12	16
H22	96	71	19	7	6

東日本大震災における活動と今後の方針

3月11日の地震発生と同時に、地元住民の避難誘導を行いました。そして、支援・救援物資の配達。断水等が長引いたため、サポーターと高校生が高齢者宅を見回りながら、支援物資を配達しました。また、他の地区から支援物質が届いてないとの連絡があり、届けに出向いたりしました。

このように、私たち関の子広場は、自らも被災をしている中で、地域の安全のためには動ける人間は動こうという気持ちで、これからも活動が続けていくつもりでおります。

活動資金の問題もありますが、これは行政、警察、地元の理事会等に呼びかけて、恒久的な財源確保の方法を考えていきたいと思っています。

私たちは、次の5つの合い（愛）言葉を活動指針としています。

「思い合い」、「認め合い」、「支え合い」。この3つは、いわき市のユニバーサルデザインの言葉になっていますが、これに「見守り合い」と「声かけ合い」を入れて、関の子広場の5つの合い言葉としています。

自分たちの生活共同エリア、生活共同体である地域を安心と安全のために、自分たちの手で守っていかなければならない。だから、震災には負けてられないという気持ちで、今後も自主防犯意識の高揚をはかっていきたいと思っています。

3. 11 東日本大震災時の活動

避難所への炊き出し



高校生の活動

地元婦人会の活動



●質問 さきほどのお話では自治会とか町内会とかの話があまり出ませんでした。自治会や町内会とはどのような関係にあるのか、お聞かせいただけますか。

○回答 こちらでは町内会ではなく自治会ですが、自治会の方々は運営委員という形で参加しています。行政に関することは私たちが勝手に進めることはできませんので、常に自治会の方々と連携をとっております。また、サポーターの中にも自治会の役員がたくさんいます。あえ

て自治会のことを出さなかったのはそのような理由です。

●質問(ご感想) 私も福島県出身で、みなさんのお話を伺って大変勇気をもらいました。特に、勿来高校のみなさんの活動ぶりに感動いたしました。これからも頑張ってください。

●質問 さきほど、夜中にパトロールを行うというお話がありましたが、どういうときに、どういう方たちがパトロールをされているのか教えていただけませんか。また、青少年の方々がいろいろな活動に参加されております。青少年をわれわれの仲間に取り入れるというのは難しいことなのですが、どのように現在の関係を築かれたのかお聞かせ願えますか。

○回答 夜中のパトロールは、大晦日にお寺や神社にお参りに行く方々の安心安全のために行っています。学校の健全育成会、その会長にはPTA会長になるわけですが、その会長さんを通してPTAの男性の方々に応援を要請しています。パトロールは私たちサポーターと共同、あるいは防犯協会の方々と共同という形で行っています。それから、高校生に関しては、学校の校長先生に私たちからこういう趣旨で活動を行うので応援していただけないかという形で直接お願いしました。その当時、青少年の非行が問題となっていたということもあり、校長先生も喜んで引き受けてくれまして、当時は生徒会の会員の方々が自主的に参加してくれました。その後、生徒会員が同じ学年の生徒に声をかけるという形で、少しずつ協力いただける生徒が増えて、現在のような状況になっています。

●質問 関の子広場パトロール隊の具体的なパトロール方法をお聞かせください。また、関の子広場が開所して刑法犯が激減したということですが、私共の地域ではなかなか減少しません。どのようにしたら刑法犯が減少するのか、お教えいただけますか。

○回答 特別パトロールを厳しく実施しているわけではありません。地域のパトロールに関しましては、クルマにパトロール用のステッカーを貼って、大体午前中1回、午後1回、見回りを行っています。犯罪が減った理由は、さまざまな活動の推進により、地域住民、とくに高校生たちの間で防犯に対する意識が高まってきたことが大きいと思います。